

安全マップで「子ども110番の家」を確認(赤羽根小学校)



●取り組み 2 学校では…

集団登下校指導の徹底

学校では、子どもたちを一人にさせないことを心がけ、集団で登下校するよう指導を徹底しています。特に、犯罪者にねらわれる確率が高くなる時間帯には注意するように、子どもたちに呼びかけています。

安全マップを作成

事故や事件が起こった場所や、危険だと思われる場所、また、子ども110番の家などを、安全マップとして地図にまとめ、子どもたちに周知しています。

地域との連携

子どもたちに直接指導・周知するだけでなく、保護者の方や「子ども110番の家」などと連携を図り、周囲から子どもたちを守ってもらえる環境を整えています。

そして、もしも事件や事故が発生した場合に備え、安全ネットワークというものを作成し、情報が正確に、素早く伝わるよう心がけています。

不審者の侵入防止対策

事件や事故は、なにも下校時だけに起こるとは限りません。数年前には、大阪で小学校内に男が侵入し、複数の児童を殺傷するという事件がありました。

学校では、このような事件を未然に防ぐために、門扉の

ご存じですか? 子ども 110番の家



「子ども110番の家」は、子どもたちが助けを求めるために駆け込むことができる緊急避難場所として設置されています。各小学校区の通学路上におおむね10か所あって、その家には、写真のような標示板が取り付けられています。

保護者の方は、お子さんと一緒に場所を確認するなどし、「何かあったらそこに逃げ込んで、助けを求めなさい」と教えてあげてください。



施錠を厳重にしたり、職員が来校者に積極的に声を掛けるなどの対策をとっています。また、もし不審者が侵入してしまった場合に備え、さまざまな状況を想定

した訓練や研修などを行っています。